

◎野木京子

冷えた夜空
出たり隠れたりする月
にわかには明日という日を
途方もない
と思う

春町 美月（大阪府）

*夜空を見上げていると、吸い込まれそうな感覚になる。その瞬間、時間の進み方が狂ったのか、あるいは時間が止まったのか。`永遠、に心奪われ、明日、普通の日常が来るとは思えなくなった。スケール大きな詩。

寒いよと起きてきた子の
汁椀にひとひら柚子皮
いれてやる朝

加藤 美紀（愛知県）

*体を温める柚子。おつゆに入れても、すぐに体が温まるわけではないが、その香りにハッとして、心は温まったはず。親子の繊細な心の動き。映像として見える色彩も鮮やか。

甘ったるい秘密を抱え排卵日

宇井 麻千（大阪府）

*宇井さんの詩には、どきりとさせられることが多い。この詩もそう。わずか一行で、罪の匂い、性の根源的な暗さ、命の息吹を描いている。

君に訊けなかったことを鴨に訊く

細村 星一郎（東京都）

*この詩もたった一行で広がりを見せる。水面の広がりが見えてくるのだ。さて、鴨はなんと答えたのだろう。こちらの問いに対して、肯定の返事をしてくれる気がする。

たんぽぽが無邪気に

摘まれるように死はきつと

長谷川柊香（宮城県）

*わたしたちの命も、ある日突然、見えない手が上方からおりてきて、摘み取られてしまうのかもしれない。生きるものの宿命であるとはいえ、そんな恐ろしいことは起こらないでほしい。「きつと」の次の言葉がないままで終えたことで、淡い希望が描かれているように思えた。

隣人は人魚だろうか

午前二時壁の向こうで波音がする

燦嗣いとり（愛知県）

*深夜、壁越しに聞こえてくる音。聴覚だけというのは想像をかき立てる。映像が見えず、実際はどうなのかわからないからだ。映画『シェイプ・オブ・ウォーター』を思い浮かべた。隣は、部屋いっぱいに水が溢れているのかもしれない。

月一の

病院帰りの瓶ビール

爺ちゃんと僕の

極秘事項

儀間ゆみ（沖縄県）

*ほのぼのと心が温かくなる。祖父と付き添いの孫との交歓。「瓶ビール」としたところが巧み。中華料理屋さんか定食屋さんか、お店の情景が見えてくるような気がする。

近親者が亡くなるのは
初めてのこと
凧いだ海のような心境です

風船（東京都）

*近親者を喪ったことの衝撃の大きさと悲しみの深さを、「凧いだ海のような心境です」と表した見事さ。静かな海の映像が読者の目に浮かび、打ちのめされた様子の遺族の胸の内に思いを馳せる。

世界地図を眺め
空想の世界も
自粛している自分がある

桜咲（千葉県）

*今回の感染症流行のせいで、皆が内向きになりがちだ。大きな世界に出ていくことを自粛し、ひたすら小さくなり、心を広い世界に解き放つことを忘れていた自分に暗然とする。そういう自分に気付くことが、心の自由を取り戻すための第一歩。

夜が冷たくなったので
ハリネズミを飼いたい

呉田 稔（福岡県）

*この詩は楽しい。柔らかなペットを抱いてぬくもりを得たいところだが、そんなありきたりなことなどするものかと、あえてハリネズミ。とはいえ、ハリネズミはけっこうかわいい動物だけだ。

じいちゃんに

小さいお手々が塗る頬紅

怖がらない子が

哀しく嬉しい

儀間ゆみ（沖縄県）

*祖父への死化粧。最後の身だしなみを、小さな孫が整えてやる。死の意味を知らない幼い子の無邪気さと、その場面を見つめている大人たちの押し殺した悲しみの、両方を感じさせられた。